

「未来へつなぐ-三郷町総合戦略」令和7年度KPI実績に係る総合戦略有識者からの意見一覧

■基本目標1 子どもをすこやかに未来へ育むまちづくり

基本的方向		具体的施策		指標名	担当所属	委員意見
1	子育て支援の充実	—	—	—	こども未来課 すこやか健康課 西部保育園 保険課	子育て支援の充実や教育環境の整備については数値目標を設定することが難しいが、相談や支援を受けやすい様々な施策やいじめ対策・不登校への支援強化が功を奏し、子育て環境の良さが実感されているのか、出生数がR6年度に比べ1.33倍と増えた。三郷町で子どもを持ち育てたいと感じてもらえるよう、今後も情報発信を続けてほしい。
3	広く開かれた透明性の高い行政	16	まちのブランディング戦略と知名度向上に向けたPR	・公式LINEアカウント登録人数	企画財政課	令和7年度実績は基準値から262人増加に留まり目標を大きく下回っている。要因として考えられるのは、配信内容や活用方法に魅力がないからだと思われます。これまで地域のイベント情報等を主に発信をされていると思いますが、例えばアプリを創設し地域限定ポイントや地域通貨を設け、町内の飲食店や施設を利用した場合やイベントに参加した場合にポイントが貯まり、貯まったポイントは地元での消費にのみでしか使えないようにすることで、地域の事業者と住民がWIN-WINの関係となり、結果税収が増え、お得感からLINEアカウント者数も友人同士の口コミや事業者からの紹介で増えると思われます。割引券の配信も登録者増加に有効かと思われます。また、各施設の予約や電子図書の貸出等も行うようにすれば、利用者の増加にも繋がると考えられます。そうすることで、特に、コアな利用者である若年層は地元愛が生まれ定住化や他市町村からの転入効果が期待できると考えます。
3	広く開かれた透明性の高い行政	16	まちのブランディング戦略と知名度向上に向けたPR	・公式LINEアカウント登録人数 ・公式SNS投稿件数	企画財政課	登録者数3,230人は基準値から262人の増にとどまりますが、課題は周知量よりも住民側の「登録する理由」の不足にあると考えます。電子申請や防災情報、特定健診の受診勧奨など、他施策の住民接点をLINEに集約すれば、登録者数は結果として伸びます。開封率など行動を測る指標の併用も提案します。
4	行政サービスの改革	18	高齢者デジタル支援プログラムによる情報格差の解消	・スマートフォン購入費用の助成件数	長寿介護課	実績2件は事業の失敗ではなく、高齢者のスマートフォン保有が進み、購入補助という手段が役割を終えつつあることの表れと受け止めます。ただし情報格差の解消という目的は残ります。予算は使い方相談や見守り機器の導入支援など「保有」から「活用」への支援に振り替え、KPIも利用率へ見直すことが望ましいと考えます。

■基本目標2 暮らしやすさと利便性が調和する安心のまちづくり

基本的方向		具体的施策		指標名	担当所属	委員意見
2	都市基盤の整備と歩きたくなるまちづくり	8	デジタル技術を活用した社会インフラの老朽化対策	・舗装修繕延長	都市建設課	目標値に対して未達。対応として、修繕が必要な個所をLINEで写真報告してもらうようにすれば、タイムリーに修繕の対応が可能となると思われます。また、報告のお礼として、上記に記載のポイントを付与すれば情報は集まると考えられます。道路が良くなることで、結果、交通事故の減少にも繋がると考えられます。
3	公共交通の利便性向上	9	地域公共交通の利用促進と予約制乗合タクシーの利便性向上	・予約制乗合タクシー1日あたりの利用者数	まちづくり推進課	予約不成立件数2,368件をExcelで把握されたことを高く評価します。これは失われた需要の見える化であり、貴重なデータ資産です。時間帯・地区別に分析すれば、増便によらずシフトの組み替えで解消できる不成立も相当数含まれると見込まれます。「予約成立率」のKPIへの追加を提案します。
4	医療・福祉の充実	17	ゲートキーパー育成と地域連携によるこころの健康づくり	・ゲートキーパー養成者数	すこやか健康課	ゲートキーパー数を増やすことに加え、ゲートキーパーの質の向上に取り組まれない。

■基本目標3 地域資源を活かし人と経済が活性化するまちづくり

基本的方向		具体的施策		指標名	担当所属	委員意見
1	地域文化と観光の振興	1	奈良おもちゃ美術館によるにぎわいと交流の促進	・年間来館者数	こども未来課	小さい子どもを持つ親御さんが子どもの成長を子どもと一緒に楽しめる施設。来館者数の目標値を大きく上回っている。一回の訪問ではなく、何度でも来館したくなるように、今後も工夫と情報発信を続けてほしい。
1	地域文化と観光の振興	1	奈良おもちゃ美術館によるにぎわいと交流の促進	・年間来館者数	こども未来課	奈良おもちゃ美術館の年間来館者数は目標84,000人に対して94,177人、龍田大社の参拝者数は213,900人と目標を上回り、地域の重要な観光資源として一定の成果が確認できる。一方、日本遺産関連施設の来館者数は目標を下回っているため、おもちゃ美術館の来館者、龍田大社の参拝者を日本遺産関連施設への周遊につなげる仕組みを検討し、地域全体への経済効果につなげることを期待します。
		2	日本遺産事業との連携による観光客向けPR 活動の強化	・龍田大社の参拝客数 ・日本遺産関連施設の来館者数	ものづくり振興課	

	1	地域文化と観光の振興	3	デジタル活用による地域観光の推進	・信貴山エリアの体験型サービスの誘客数	ものづくり振興課	インバウンド需要を取り込むポイントとなるのは、体験型サービスの活用や充実になるのは言うまでもありません(外国人は体験好き)。奈良県の中西部に位置する三郷町は、奈良市(奈良公園等)からの観光客を南に誘致することは困難でしたが、飛鳥・藤原の旧都が世界遺産に認定されたこともあり、今後は中南和への観光客の増加が期待されます。橿原市や明日香村と連携や公共交通機関を巻き込んで周遊バスの創設なども考えていただけたら幸いです。大阪からのアクセスも良いので、大阪での看板広告やJRの駅のチラシの設置等も行うのも観光客増加に繋がると考えられます。また、地元住民(特に若年層の家族)への各施設の特別割引特典やイベントの情報発信を行うことで認知アップや住民の満足度にも繋がることと考えられます。また、消費金額の増加にもなり、税収の増加にも繋がると考えられます。他の市町村には同じような施設がないところもあり、宿泊客数は増加している状況下で、体験型施設の火を消さないようにすることは、喫緊の課題と考えられます。
	1	地域文化と観光の振興	3	デジタル活用による地域観光の推進	・信貴山エリアの体験型サービスの誘客数	ものづくり振興課	体験型サービスが基準値143,691人に対し110,364人と大きく減少する一方、インバウンドは目標を超過しており、成果が二極化しています。いずれも個々の施設の努力が地域に波及していない点が共通の課題です。日本遺産龍田古道ビジターセンターの開館を機に、宿泊・体験・寺社を結ぶ周遊の動線づくりを期待します。
			4	外国人観光客の受け入れ環境の整備	・インバウンド誘客数	ものづくり振興課	
	1	地域文化と観光の振興	4	外国人観光客の受け入れ環境の整備	・インバウンド誘客数	ものづくり振興課	インバウンドの誘客数が大きく目標値を上回っており、日本へのインバウンドが増えているこの波に乗って、観光客による魅力的なSNSなどの情報発信を推進できる工夫をしながら、町内施設の魅力を高める取組を続けてほしい。
	1	地域文化と観光の振興	4	外国人観光客の受け入れ環境の整備	・インバウンド誘客数	ものづくり振興課	インバウンド誘客数は、5,841人で目標5,000人を上回り、取組みの成果が見られる。一方で、多言語化対応施設数は6施設にとどまっており、今後は観光施設のほか飲食店、交通などの民間事業者も巻き込み、多言語対応を地域全体で進めることが、更なる外国人観光客の受入れにつながると考えます。
	4	生涯学習環境の充実	14	図書館における多様なサービスの提供と読書バリアフリーの推進	電子図書貸出冊数	図書館	基準値・目標値に対して共に未達。利用方法の認知が弱いものと推測されます。電子図書は特に若年層に有効と思われるので、LINEでの利用方法の配信やアプリによる貸出システムの構築などを行うといいと思われます。若年層の取り込みが利用者増に繋がると考えられます。同時にLINE登録者も増えると思われます。

■基本目標4 自然とともに健康・安全に暮らせるまちづくり
 意見なし

■全体

項目名	委員意見
KPIの設計と進捗評価の考え方	刑法犯認知件数や交通事故発生件数など、外的要因の影響が大きい指標は、町自らも進捗評価が困難と記載されています。これらは成果指標として維持しつつ、防犯カメラの画像提供件数など町の出組量を示す指標を併記する二層構成とすれば、努力と成果を分けて説明でき、住民への説明力が高まると考えます。
SWOT分析	総括として感じたことは、高齢者対応はかなり浸透しているものの、若年層へのサービス強化と観光の活性化が課題と考えられます。若年層が住みやすい街と感ずるような施策を行うことにより、必然と定住化や人口増加に繋がると考えられ、若年層が増えると街も元気になると考えられます。伸びしろはまだあるので、今後の取組みに期待します。外部環境や脅威は刻一刻と変化しており、変化の早い世の中ですので、是非、現時点でSWOT分析を行い、得意分野(実績が上がっている項目)を更に改善し熟成させ、苦手分野(実績が上がっていない項目)を今後どうするか、代替案を考えるなどを検討していただければと思います。いろいろ意見しておりますが、三郷町が良くなってもらいたい気持ちが強い表れですのでどうかご理解願います。

■地域再生計画

項目名	委員意見
地域再生計画KPIの目標設定根拠について (事業名:木育推進型インクルーシブ拠点計画)	地域再生計画のKPIについては、年度ごとの「増加分」に対して目標値・実績値が設定されていますが、各年度の目標値の算定根拠や、年度ごとに目標値が異なる理由が分かりにくい印象を受けます。特に、転入者数などは年度別目標値が変動しているため、どのような前提・基準に基づき設定されているのか、簡単な注記があると検証可能性が高まると考えます。
実績値がマイナスとなるKPIの表示について (事業名:木育推進型インクルーシブ拠点計画)	地域再生計画のKPIにおいて、転入者数の実績値がマイナス表示となっている箇所があります。これは実際の転入者数がマイナスという意味ではなく、基準値等との比較による「増加分」がマイナスであったものと理解しますが、そのような理解でよろしいでしょうか。どの数値を基準とした増減であるかを明記することが望ましいと考えます。